

日時：2013年6月15日（土）15：30～18：45
 場所：東洋大学8号館第2会議室

日本パーソナリティ心理学会第109回常任理事会

出席者：浮谷秀一理事長、中村真副理事長、家島明彦、小塩真司、二宮克美、松田英子、
 松田浩平、山崎晴美、渡邊芳之
 事務局：加藤司（事務局長）、太幡直也（幹事）
 欠席者：なし

報告事項

I 理事長挨拶

II 各種委員会報告

1 機関誌編集委員会（渡邊委員長）

(1) 機関誌編集委員会の開催状況

平成25年3月26日から3月29日、メールによる常任編集委員会を開催し、「パーソナリティ研究」第22巻第1号の掲載論文、投稿者用チェックリストの改定について審議した。

(2) 「パーソナリティ研究」の編集発行状況

1) 「パーソナリティ研究」第21巻第3号の発行状況

第21巻第3号は論文13本（原著6、資料2、ショートレポート5）を4月初旬に発行された。

2) 「パーソナリティ研究」第22巻第1号の編集状況

第22巻第1号は以下の11本（原著3、資料3、ショートレポート5）、初校の編集委員長チェック中である。7月末の発行を目指す。

論文番号	投稿番号	種別	題目	筆頭者	受稿	受理
22-1-1	A-296	原著	学業場面における誘惑対処方略尺度の作成	小林麻衣	2011/12/18	2012/11/16
22-1-2	A-289	原著	中高年期における感情調整の発達に関する横断的研究—年齢、身体機能、感情調整、精神的健康の関係に注目して—	中川威	2011/9/12	2012/11/27
22-1-3	A-302	原著	対人不安IATの作成および妥当性・信頼性の検討	藤井 勉	2012/3/21	2012/12/13
22-1-4	A-294	資料	Ego-Resiliency尺度：ER89日本語版作成と信頼性・妥当性の検討	畑 潮	2011/11/25	2012/12/13
22-1-5	B-79	資料	抑うつ的反すうの能動性に焦点を当てた介入プログラムの効果：大学生の高反すう傾向者を対象とした予備的検討	長谷川晃	2012/7/10	2013/3/8
22-1-6	B-83	資料	女子大学生を対象とした思考抑制とストレスサーがもたらすネガティブな反すうへの影響	村山 恭朗	2012/10/3	2013/3/18
22-1-7	S-226	ショートレポート	日本語版セッション評価尺度(The Japanese Session Evaluation Questionnaire: J-SEQ)作成の試み——カウンセラー評定による検討	桂川 泰典	2012/5/28	2012/11/9
22-1-8	S-230	ショートレポート	エフォートフル・コントロールは検索誘導性忘却を予測する	小林正法	2012/7/31	2012/11/27
22-1-9	S-225	ショートレポート	日常生活の中で生じるフォーカシング・プロセスによる感情制御と人生満足度との関連：感情プロセス認識尺度第2版による検討	酒井久美代	2012/4/22	2012/11/27
22-1-10	S-222	ショートレポート	被虐待児におけるBigFive性格特性の分析	緒方康介	2012/4/15	2012/12/13
22-1-11	S-204	ショートレポート	高校生における仮想的有能感と対人関係との関連 — 仮想的有能感の変動に影響を及ぼす要因の検討 —	松本 麻友子	2011/5/13	2013/1/9

3) 「パーソナリティ研究」第22巻第2号以降の編集状況

6月11日現在採択論文が11本(原著5、資料2、ショートレポート4)ある。6月末頃までに第22巻2号の掲載論文を入稿予定である。

3 投稿状況、審査状況について

1) 投稿状況について

昨年6月から今年5月までの投稿状況は下表の通りである。

年	月	原著	資料	ショートレポート	展望他	合計
2012	6	1	0	1	0	2
	7	3	3	2	0	8
	8	2	0	1	0	3
	9	0	2	0	0	2
	10	1	1	2	0	4
	11	1	3	1	0	5
	12	2	0	2	0	4
2013	1	2	0	2	0	4
	2	4	1	0	0	5
	3	0	1	2	0	3
	4	3	0	1	0	4
	5	1	2	4	0	7
合計		20	13	18	0	51

年	原著	資料	ショートレポート	展望他	合計
2007	41	10	21	1	74
2008	23	12	24	3	61
2009	29	9	25	0	63
2010	31	11	23	0	65
2011	34	6	21	0	61
2012	20	12	19	0	51

2) 審査状況

昨年6月から今年5月までの審査状況は以下の通りである。

年月	採択	要修正再審査	不採択	投稿取下
2012/6	2	10	4	1
7	4	8	5	0
8	2	7	1	0
9	3	5	0	1
10	2	15	1	0
11	7	9	3	0
12	2	6	0	1
2013/1	1	2	1	1
2	1	8	3	2
3	4	6	2	0
4	5	7	1	0
5	4	4	0	0
合計	37	87	21	6

2008年以降の審査状況の推移を以下の表に示す。

年	採択	要修正再審査	不採択	投稿取下
2008	35	105	15	9
2009	31	95	20	6
2010	31	80	16	7
2011	30	112	17	10
2012	36	87	22	7

5. その他

(1) 投稿論文種別の変更

「パーソナリティ研究」投稿論文の種別を「原著」「ショートレポート」の2種類のみに変更することについて、21巻3号に告知を掲載した。22巻1号には新しい編集規程と「投稿者用チェックリスト」(資料)を掲載し、8月1日より電子投稿の投稿種別を変更する。

7月初旬に、Web ページに新しい編集規程とチェックリストを掲載する予定である。

(2) 「投稿者用チェックリスト」の全面改訂について

チェックリストを全面改訂し、8月1日より使用する。

(3) 編集事務局業務の一部外注

編集事務局業務のアルバイトへの移管は進展していない。

2 経常的研究交流委員会 (二宮委員長)

(1) 第22回大会における委員会企画シンポジウム

1) 10月12日(土)(13:30-15:30)

「助け合いの心理学」

2) 10月13日(日)(9:00-11:00)

「恋愛関係の終わりを考える」

3 広報委員会 (家島委員長)

(1) YPP2013

大会前日10月11日(金)に東京大学(教育学部第一会議室)で開催予定。

内容は「討論企画」と「研究発表」の2部構成。

(2) 大会企画

10月12日(金)「パーソナリティ心理学における統計分析の動向」という題目で開催予定

4 国際交流委員会 (小塩委員長)

(1) de Fruyt 先生招聘の件

フライト予約作業を進めている段階

(2) ICP 企画の件

タイトル: 日本におけるパーソナリティ心理学の現状と課題

企画者: 小塩真司

5 学会活性化委員会 (松田委員長)

- 1) 第 22 回大会における委員会企画シンポジウム
「パーソナリティ心理学の基礎教育」を企画している
- 2) 大会発表賞の審査基準について

- 6 各種電子化検討小委員会（松田委員長）
特になし。

- 7 選挙規程検討小委員会（中村委員長）
別紙のとおり、学会会則に関する修正案が承認され、総会で審議されることになった。

- 8 学会 20 年史編纂委員会（浮谷理事長）
委員長：佐藤達也
委員構成：浮谷秀一、渡邊芳之、藤田主一、安藤典明
(1) 書籍の出版
福村出版より、出版する計画である。
企画内容について説明がなされた。学会の歴史を中心にまとめることが報告された。

III 日本心理学諸学会連合

- 1 日本心理学諸学会連合について（浮谷理事長）
6 月 17 日に東京大学にて開催された。国家資格化の進展状況について話がなされた。
一般財団法人日本心理研修センター開設され、説明がなされた。1 口 5 万円で、2 口以上の寄付の依頼がきた。金額については、理事長に一任することにした。
- 2 心理学検定について（加藤事務局長代理）

堀毛担当委員に変わり、心理学検定の概要について説明がなされた。試験日は 8 月 25 日。
会場は 19 会場に増加。

IV 事務局報告（加藤事務局長）

特になし。

V 第 22 回大会準備状況について（松田準備委員長）

- 1 HP の公開
- 2 今後の予定
8 月下旬にプログラムの発送する予定。10 月大会当日に論文集の配布する予定である。
- 3 参加者数途中経過報告
参加申込人数 238 名、発表申し込み件数 144 件、懇親会参加者 62 名
- 4 大会企画
委員会企画講演・シンポジウム 6 件、自主シンポジウムの企画 1 件
- 5 協賛状況報告
広告掲載 10 社、展示 5 社

VI その他

第 23 回大会は山梨大学（準備委員長は尾見）で決定した。

審議事項

I 2012 年度決算・2013 年度予算に関する件（山崎財務担当常任理事）

- 1 2012 年度決算（仮）が提出された。
- 2 2013 年度予算（案）が提出された。

II 第 108 回常任理事会議事録承認に関する件（加藤事務局長）

常任理事会 ML にて指摘された点を修正したものが提案され、承認された。

III 新入会員に関する件（加藤事務局長）

1 新入会希望者の件

(1) ML 承認済み

一般会員：26 名

院生会員：44 名

以上、追認された

(2) ML 承認未

一般会員：3 名、院生会員 5 名

以上 8 名の申請があったが、1 名を除き、以上の 7 名が承認された。

この 1 名の入会は、学会会則 5 条に照らし合わせて、見送ることにした。

(3) 現在保留中の入会申込者に関して

*前例、廣岡徹氏および加藤洋一氏ならびに、学会会則 5 条に照らし合わせて、入会承認を見送ることになった。

2 退会希望者の件

以上、12 名が承認された。

3 会員報告

以上、以上の承認を受けて、6 月 14 日現在、会員総数は 939 名である（一般会員 613 名、院生会員 311 名、学生会員 6 名、名誉会員 8 名、賛助会員 1 名）。

IV 退会処分に関する件

別紙の 39 名が会費未納による退会処分が提案され、承認された。

V その他

特になし。

暫定：次回常任理事会 8 月 8 日（木）10：00 から
東洋大学にて